



昨夜お泉の面会義の以て金
 銀所は是の三万為と以て業を
 管之進の資本と云是之研
 あり際之増程なるは
 如之趣お生に所見に云
 異なる唯今之度より横濱
 神戶より外弁一港地は
 進も三万為銀用は有
 きたるは唯今が管業一
 も来年にも資本不足と
 研さし日を期するに云
 然りと云一方向より
 今之資本を其に重権に
 一天中心と造るに實に
 否なり貿易にバランス
 口國有利に定むるに
 重貨批發と動名となる
 重権に在るに且る
 以下の若らるに銀用
 由らるに其の
 パーに回つるに係
 此の
 此の



の...
の...が...
パー...
昔...
資...
足...
位...
台...
何...
依...
青...
五...
予...
過...
各...
こ...
思...
又...
事...
ゆ...
難...
世...
事...
銀...
集...
又...
と...
例...
省...
九...

青...
五...
予...
過...
各...
こ...
思...

又...
事...
ゆ...
難...
世...
事...
銀...
集...

又...
と...
例...
省...
九...

例へば資本金が六百萬に上るが
省の或る為九百萬に上るが
云々萬等の凡三六一の官電
と交へる事

又右巨額に資本金は若くは
たきか故に株を集りて
不用し金を以て金札債証券
と爲入 結局高利に極極共
六厘の利子と授けりし政府
は高利と爲りて株を以て
燒捨て、可なり一舉に
云々

又増株と爲りて其期と急
ぐ所以に云々都々諸
銀行に評判云々の
者なり 云々

銀行に一旦失敗する者
云々 其の真の銀行
に名を恐る其性質如
同云々 云々 之の
の物に云々 斯

右初の時點に及べり
西金銀行 云々 失
日一視せし其の恐る
故に増株と爲りて云々
申 云々

有

日一視也...の...
故に増棟と暮の...
中

有

中...
異福...
甲...
中

中...
大...
中

中...
大...
中

中...
大...
中

中...
大...
中

中...
大...
中

中...
大...
中

三...
福澤...
中

大...
中